

# 地域子育て支援拠点の活動 と地域子育て支援のあり方

---



特定非営利活動法人びーのびーの 理事長  
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長  
奥山 千鶴子

<http://www.bi-no.org>

# 活動の背景 ～なぜ乳幼児期？～

## ★家庭での育児困難★

0, 1, 2歳児の子どもの在宅子育て率 8割

育児不安 (共働きの親46.7%、専業主婦70%)

イライラすることが多い (1981年 10.8% → 2000年 30.1%)

児童虐待相談処理件数 (1990年 1,101件 → 2004年 32,979件)

児童虐待死亡数 (2004年58件中、4割が1才未満、7割が4ヶ月未満)

夫の不在

(2003年 夜11時から翌朝3時まで帰る夫、南関東で20%)

18歳未満の子どものいる世帯

(1975年 53% → 2003年 28.3% 厚生労働省 国民生活基礎調査)

6歳未満のいる世帯の核家族率 78.6% (2000年国勢調査)

子どもの世話をしたことの無い親

あなたはご自分の子どもが生まれるまでに、他の小さい子どもさんにたべさせたり、おむつをかえたりした経験はありましたか

(1980年大坂レポート 41% → 2003年兵庫レポート 56%)

(大坂大阪人間科学大学社会福祉学科(精神科医) 教授 原田正文)



# 地域子育て支援のあり方

---

孤独な子育てをなくしていくために

子育て家庭の最初の一歩を応援する

(Sure Start 確かなはじまり)

(Starting Strong 人生の始まりを力強く)

すべての子育て家庭を視野に入れる

- 乳幼児家庭への訪問事業 (地域のリソースにつなげる)
- ひろば、地域子育て支援拠点事業 (居場所、関係づくり)
- 一時預かり事業 (在宅家庭・育休利用者に対応)

# 地域子育て支援拠点事業

## ひろば型

## センター型

## 児童館型

- ①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進      ②子育て等に関する相談・援助の実施  
 ③地域の子育て関連情報の提供                      ④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

施設のつどいの広場を  
開設して実施

出張ひろば(加算)  
→次年度開設のステップ

地域の子育て力を  
高める取組(加算)  
→学生等ボランティアの  
受入・養成、世代間・異年齢  
児の交流、父親の育児参加  
促進、公民館等地域に  
出向いた支援活動

子育てに知識・経験を有する者  
(2名以上)

週3日以上、1日5時間以上

専任の保育士等を配置して  
園庭や専用スペース、  
地域資源を活用して実施

※公民館等地域に出向いた  
地域支援活動の実施が必須

保育士等(2名以上)

週5日以上、1日5時間以上

民営の児童館の学齢児が  
来館する前の時間を活用し、  
子育て中の当事者等を  
スタッフとして交えて実施

地域の子育て力を  
高める取組(加算)  
→学生等ボランティアの  
受入・養成

子育てに知識・経験を有する者  
(1名以上)+児童館職員の協力

児童館型



# 子育てひろば全国連絡協議会

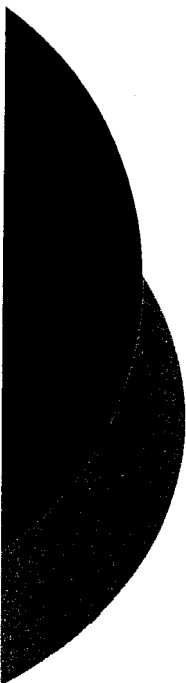
---

つどいの広場全国連絡協議会（平成16年4月設立）を経て  
設立

- 研修セミナーの実施
- 調査研究
- 研修プログラムの開発
- 会員管理（現在会員数 260団体・個人）
- 情報提供
- 関連商品開発（ひろば支援ツールの開発）
- 社会的提言

平成19年2月 法人化しました！

**「NPO法人子育てひろば全国連絡協議会」**



# 地域子育て支援の拠点における プログラム活動のあり方

地域子育て支援の拠点における機能とプログラム —平成16年度、17年度の全国調査を通して—

渡辺顕一郎(子育てネットくすくす理事長)

---

- (1) 居心地の良い場をつくりだす
- (2) 親同士の支えあいを促す
- (3) 利用者を支援に結びつける
- (4) 地域の人たちの交流をつくる
- (5) 地域の関係機関・団体とのネットワーキング
- (6) 親としての成長を促す



# 子育てひろばの位置づけ

---

- 妊娠、出産、乳幼児期の子育て家庭が気兼ねなく集まり交流できる場
- 乳幼児期の子どもたちが安心して、のびのびと遊べる場
- 子育ての情報を得たり、交換できる場
- 親子が育ち合う仲間と出会える場
- 子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場
- 親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場
- 子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場
- 地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場

# 子育て支援と当事者性、協働

---

○子育て支援は何のためにしているのか？

→ ・親自身が自分の課題を認識し、自分自身がゆるがない親として成長できるように

・子どもは、親だけでなく地域や多くの関係性の中で育まれるものだと親も地域も認識できるように

(決して親役割の肩代わりではない)

○親支援、家庭支援は、日本で行政が担えるのか？研究がされているのか？

→ まだ始まったばかり。NPO, 住民組織、行政、専門家(心理、家族援助、幼児教育など)の協働・連携がかかせない。

**親、支援者、機関の自主的・補完的成長が地域をたがやす**



# 2006年度法人びーのびーのとして 横浜市港北区内3ヶ所で運営

## ★おやこの広場びーのびーの菊名ひろば

(横浜市社会福祉協議会 親と子の  
つどいの広場事業) 毎日10組の親子利用



## ★妙蓮寺ほっとプラザ ゆーのびーの

独自事業

一時保育とグループ保育(6組)事業



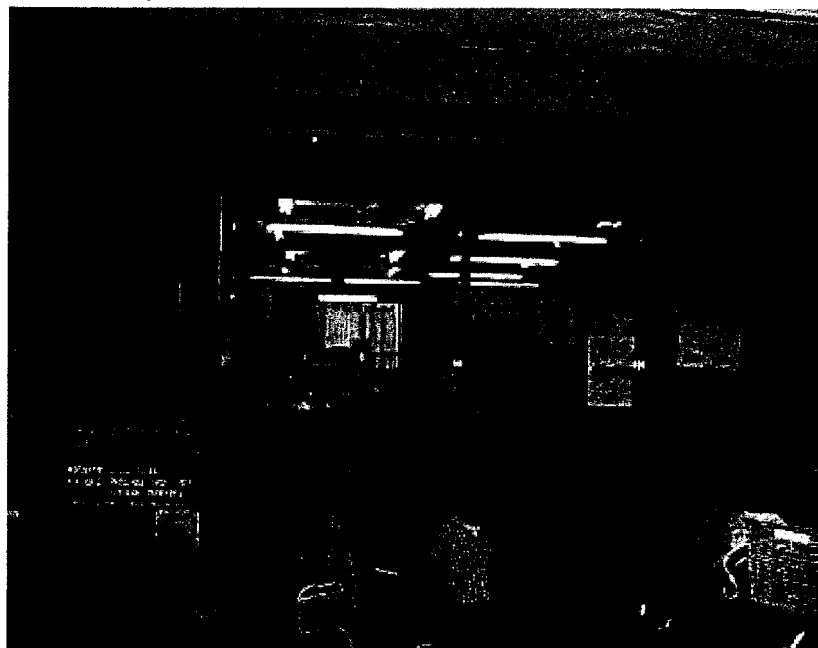
## ★港北区地域子育て支援拠点 どろっぷ

(横浜市こども青少年局・  
港北区委託事業) 毎日80組の親子利用



# おやこの広場びーのびーの (改装前)

---



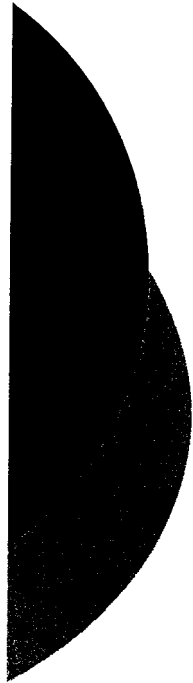
# おやこの広場びーのびーのとは。。。

---

おやこの広場は、駅前商店街の一角に立地し気楽に親子が集える場所として開設。(2000年4月スタート)地域の人たちに支えられながら、みんなで子育てを担い、ともに育ち合うことを大切に、親の育児負担感を減らし、子育ての社会化を目指した活動



改装後の菊名ひろば(2005年春)



# ゆーのびーの



2歳児からはじまるグループ保育と一時預かり

## ■事業展開の経緯

- ・専業主婦の一時預かりに対する抵抗感の払拭
- ・育児のパートナーとしての保育者
- ・働いていない人にも子どもの保育を可能にするシステム
- ・子どもの視点でのゆるやかなグループづくり  
(親から離れて、子ども同士の関わりへの助走期間)

# 港北区地域子育て支援拠点「あつち」

次世代育育  
最優先事業  
美施事美三

初めての在宅育児  
託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

託

# 新しい施設運営のあり方を目指して

- 民設民営方式でありながら、  
公的委託による運営
- 委託契約書・仕様書などの取り交わしと別個  
に、  
「協働協定書」の締結を目指して
- 施設運営の評価・成果の見出し方
- NPOの独自性と当事者性×  
行政の公平性と普遍性

★本施設運営を実現するための計画に  
常に立ち戻りそもそも「何を実現したいのか？」  
「したかったのか？」を忘れない。言い続けること  
またその主張を支える為に必要なゆるがない活動成果



どろっぷ概観↓





# 地域子育て支援拠点事業に 求められる視点

---

## ○子育て家庭への共感

孤立化の予防

## ○出会いの場

地域への足がかり(親)

子育て家庭との出会い(地域の方、ボランティア)

## ○次世代を育む地域の循環づくり

ひろばを通じてすべての世代がつながる



# 地域子育て支援拠点事業の課題

---

## 課題

- 地域子育て支援事業の法的な位置づけがあいまい
- 数の確保 中学校区にひとつの拠点？
- 地域にひらかれたひろば事業の意味
- ひろば機能の理解
- 親子がつどう場、親理解
- 当事者性と専門性
- ひろばスタッフの役割・研修
- 地域子育て支援センターとひろば事業
- NPOなど市民団体と行政との協働